

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">会 議</div> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	—
		決裁期日	平成30年7月3日
名 称	平成30年度 第1回安平町未来創生委員会		
日 時	平成30年6月28日 午前・ 午後 6時30分～8時30分		
場 所	安平町役場総合庁舎（第1会議室）		
出席者	安 平 町 及川町長、（政策推進課）木林課長、渡邊課長補佐、木村主幹、笹山主事 （地域推進課）岡課長補佐 委 員 未来創生委員会委員・有識者 11名		
会議概要	<p>1 開会 ◇過半数の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委員長挨拶 ◇本日の会議では、町長から未来創生委員会に対して、「第2次安平町総合計画 中期基本計画の策定に係る諮問」があること。 ◇中期基本計画については、町長の公約なども念頭に、来年の3月に議会提案を行う予定とのことで、今後の策定方針やスケジュールなどの説明があること。 ◇本日はそうした意味で、当委員会にとっても、新たなスタートとなること。</p> <p>3 町長挨拶 ◇4月に安平町長に就任したこと。 ◇未来創生委員会では、「第2次安平町総合計画」と「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定・見直し・進行管理という役割としていること。 ◇町長就任後、6月議会にて今後4年間の町政執行に臨む所信表明を述べたこと。 「このまちの子どもに見せたい 未来へ飛躍する ふるさとづくり」をまちづくりのテーマに掲げ、あらゆる世代、あらゆる分野において、町内外の人・法人・団体が、この安平町を舞台に果敢にチャレンジしている姿を、子どもたちが見て、「自分もこのまちでチャレンジしたい」「この町に残りたい」と思える魅力あるまちづくりを進めていく考えであること。 ◇第2次安平町総合計画 前期基本計画が平成30年度で終了。次期計画となる中期基本計画について、町長改選となった今年度に策定作業を進めることとしており、中期基本計画については、来年3月議会への提案を予定。本日、未来創生委員会へ中期基本計画の策定諮問をお願いすること。 基本的には、現在の第2次安平町総合計画の体系に沿って、公約及び町政執行方針を作成しているが、中期基本計画の策定に関して、ご意見、ご審議をいただきたい</p> <p>◇ 行政職員の出席者紹介 4月1日付け行政組織の変更・人事異動に伴い、行政職員の出席者紹介</p>		

4 議事

(1) 第2次安平町総合計画 中期基本計画の策定に係る諮問について

(説明：政策推進課)

【概略説明（ポイント）】～レジュメ2P、資料6

- ・平成29年3月に10年間を基本計画となる第2次安平町総合計画 基本構想を策定
- ・この基本構想を実現するための中期的な指針として策定しているのが基本計画
- ・現在の前期基本計画は平成29～30年度の2ヵ年であり、今年度をもって終了。
- ・平成31年度から平成34年度までの4ヵ年を計画期間とする中期基本計画を、今年度策定していくこと。
- ・この中期基本計画については、町長改選のあった今年度に策定を行うこととしており、来年3月議会への提案を予定していることから、今年度策定に向けた議論を行っていくにあたり、未来創生委員会に第2次安平町総合計画 中期基本計画を調査審議いただくため、町長から未来創生委員会へ諮問をさせていただくものであること。



(町長より委員長に対して、朗読の上、諮問書を交付)

(2) 第2次安平町総合計画 中期基本計画の策定方針（案）について

(説明：政策推進課)

【概略説明（ポイント）】～資料6、レジュメ3ページなど

- ・総合計画の位置づけについて
安平町まちづくり基本条例において、安平町の最上位計画として総合計画の策定を義務付けていること、安平町議会基本条例により、「基本構想」「基本計画」は議決案件となっていること。
- ・中期基本計画の策定にあたっての基本的事項、策定ポイントとして、以下をポイントに策定していくこと
 - ▶ 前期基本計画の進行管理、評価検証、改善
 - ▶ 社会情勢の変化、町長公約との連動・整合
 - ▶ 複数の町民参画
- ・計画策定に係る町民参画として、以下を予定していること
 - ▶ 審議会での議論として、未来創生委員会への諮問による調査審議
 - ▶ 子育て世代を主な対象とした「座談会」による意見聴取
 - ▶ 計画（案）に対するパブリックコメント
- ・計画策定体制と今後のスケジュールについて
- ・子育てパパママ座談会に関して、レジュメ3ページで概略説明

<外部有識者>

町民参画の「子育てパパ・ママ座談会」について、町全体で意見を聴取したい属性というか、対象人数はどの程度いるのか。

<政策推進課>

18歳以下のお子さんがある家庭は概ね600世帯であり、人数にして1,200人～1,300人程度いる。今回、午前の部・午後の部、各20人で計40人の参加者を見込んでいるが、申込みが超える場合についても、参加いただく考えである。

<外部有識者>

当座談会では、子育て中の家計やライフプランに関する講座とグループワークがセットとなっており、とても良い取組みだと感じている。

ただ、時間的に短いという印象があり、なかなか意見が出にくいということもある。2回、3回と継続していくと、より良い意見が集まると考える。

<政策推進課>

今回、このような座談会という形で実施するのは初めての試みであり、我々も手探りの状態で企画しているところである。実施していく中で、必要とあれば今後検討していきたい。

(3) 安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況等について

(説明：政策推進課)

【概略説明(ポイント)】 資料1～4、レジュメ

- ・前回の委員会で、総合戦略全体の進捗状況が遅れているのか進んでいるのか分かりにくいという意見を踏まえ、その改善として、平成29年度末での総合戦略全体の進捗状況について整理したのが資料1であること。
- ・進捗状況として、平成29年度の主な取組みと成果について説明
 - ▶ 雇用分野 (1)企業誘致の促進と町内企業への継続的支援
北町工業団地の特別販売キャンペーンを実施し、5社の分譲決定により完売となったこと。
 - ▶ 暮らし分野 (1)移住・定住施策の推進
町営若草団地の特別販売キャンペーンを実施するなど、12区画の販売により成果指標としている町分譲宅地の販売率向上につながっていること。
 - ▶ 回遊交流分野 (1)回遊交流ステーション形成事業の推進
商品開発、SL関連資料のデジタル化など、道の駅の開業に向けたソフト事業の展開、魅力づけなどの取り組みを進めていること。
- ・徐々に成果が現れているものもあり、平成29年度までの取組み状況を踏まえると、総合戦略全体としては、『概ね順調に進んでいる』という評価をしていること。
ただ、安平町における自然減少対策については、思うように成果に繋がっておらず、日本全体の課題である少子化という要因が大きいのが、KPIを意識した事業のスピードアップを図っていく必要があること。

<委員>

北町工業団地、町営分譲地に関して、平成29年度の販売成果が出ている。何が要因で販売成果につながったと考えているか。

<政策推進課>

合併以降、販売状況が振るわなかったが、低価格設定でのキャンペーンを実施したことにより、大きな成果につながっており効果があったと評価している。

<委員>

北町工業団地の5社分譲決定により、企業進出という観点では、雇用増となるのか。

<政策推進課>

5社のうち、3社が町内企業の移転、2社が町外企業の進出となる。

今回の進出企業については、町内・町外からの移転となるため、若干の雇用増となる。今後の事業展開によっては、もう少し雇用増が見込まれると考えている。

<委員>

仕事柄、北町工業団地の進出企業の方と話をしたが、安平町は立地・気候などにおいて大変高い評価と聞いている。

企業を呼び込むための受け皿、進出企業の用地確保などを考えると、工業団地造成について、ぜひ計画に盛り込んでいくよう、検討いただきたい。

<委員>

住宅団地を分譲販売し、住宅建設・定住いただくことは歓迎すべきこと。
一方で、空き家が増えているという問題があり、特に追分地区が増えていると感じる。今後は、空き家の活用について検討いただきたい。

<政策推進課>

空き家対策は大きな課題と認識している。平成30年4月に「空き家等対策計画」を策定したところだが、町内には100棟以上の空き家がある。住居として使える空き家、老朽化している空き家などあるが、どのように活用していくか、空き家の流動化に向けた取組みなどが重要だと考えている。

<委員>

工業団地への企業進出もあるということだが、総合戦略という人口減少対策という視点から、進出企業の従業員が町内に住むということが大事である。
総合戦略の進捗状況を見ても、町外から町内企業への通勤従業員の移住定住を促すという取組みが進んでいないと受け取れるが、どのように考えているか。

<政策推進課>

総合戦略、総合計画を策定したこれまでの議論の中で、安平町は昼夜間人口の差が大きいという強みがあり、町外から町内への通勤従業員をターゲットとした取り組みを進めていきたいと思いますという議論をし、計画にも盛り込んでいる。

ただ、委員のご指摘のとおり、具体的な取組みや事業までには至っていないのが現状。現在、企業へのアンケート及び分析まで行っており、効果的な取組みについて検討中であること。

また、平成29年4月に町内2つ目となる追分地区児童福祉複合施設が開園となったことで、子育て環境という面ではしっかりとした基盤整備が完了。子ども園の教育方針に魅力を感じ、広域入所の園児も増えている。今後は、こういった方々にいかに町内に住んでもらえるかということも検討していく必要がある。

<委員>

早来子ども園の運動会に参加したが、苫小牧など隣接市町の保護者が増えていると感じている。そういったところへのアプローチは良いと考える。

<委員>

園の教育方針に魅力を感じ、町外からの広域入所が増えることは良いこと。
ただ、そうなることで、町内の子どもたちが入所できないなどの影響はないのか。

<政策推進課>

町内居住世帯を第一優先に入園するよう取り扱っていると聞いている。

<委員>

北陸方面の自治体では、魅力的な子育て支援などにより、人口が増えたという事例も聞いている。このような仕組みをつくっていただきたい。

<委員>

総合戦略全体の進捗状況の説明の中で、「少子化という外部要因」により自然減少対策に関する成果が見い出せていないという評価を行っている。
しかし、総合戦略については、人口減少対策として取組みを進めているものであり、安易に「少子化という外部要因」が原因という評価をしてしまつては、元も子もないと感じる。

<政策推進課>

総合戦略については、人口減少や少子化という課題に対して解決を目指して行きましようというものであり、ご意見のとおり、「外部要因が大きい」という評価で括ったことについては反省している。

全国的に人口減少という波がある中で、町としては、移住者による側面的な起業サポートや新規就農支援などの取組みを進めているところ。

また、別添資料の人口推計により、国立社会保障・人口問題研究所が2018年3月に公表した人口推計では、人口減少のスピードがより一層早まっているが、そういった中で、当町が目標としている人口を維持できるよう各種取組みを進めていること。

<委員>

①町ホームページに関して、トップページのところで、「町民向け」と「観光・町外者向け」を選択することができる。

ただ、「観光・町外者向け」を選択しても、「観光・町外者向け」のページ構成になっていないと感じる。観光・町外者視点にたった構成となるよう、工夫・検討をいただきたい。

②安平町での就職情報、雇用情報などを、町ホームページに掲載していただきたい。安平町に仕事・雇用があるということを発信することが大事だと考える。

<政策推進課>

①は総務課、②は産業経済課へ伝え、検討いただく。

<委員>

多くの町民参画により、第2次安平町総合計画を策定してきた。そういった中で、現在、産業廃棄物処理施設最終処分場の建設の話がある。安平町の将来像「育てたい暮らしたい 帰りたい みんなで未来へ駆けるまち」というテーマに逆行しており非常に残念に感じる。

<政策推進課>

色々と法律的な部分も踏まえ対応しており、都度、議会にも説明しているところ。また、北海道や国へ申し入れをしており、建設に関して、町としては撤回を求めていくこととしている。

(4) 地方創生推進交付金事業の評価・検証について（説明：政策推進課・地域推進課）

【概略説明（ポイント）】 資料5

- ・国の地方創生推進交付金制度に関して概略説明
- ・安平町では、平成29年度からの3ヵ年事業として事業採択されていること。
道の駅を拠点に交流人口を拡大し、地域活性化につなげること、そして、町内の公共交通体系を再編し、有機的につなぐことで町内交流と賑わい創出を図っていく取組みを進めていること。
- ・道の駅が目指すべきものについて
- ・オープン準備からオープン後までの流れ、人々の交流とビジネスチャンスの創造の流れについて
- ・テイクアウトの商品開発の状況、鉄道資料のデジタル化事業などについて
- ・安平町の強み「菜の花」を活用した行政、団体、住民協働のイベント試行で見えてきた回遊交流の可能性について

<外部有識者>

町外から道の駅へ来る観光客が多くなるという説明であったが、せっかく道の駅まで来るお客がいるのであれば、市街地の商店まで誘導できるストーリーがあると良い。何か物語があると、それを巡って街中まで人は来ると考える。

昨年、学生とともに安平町の観光マップを作成した経緯があるが、安平町には菜の花畑を眺められる農村風景があるなど、まだまだ外の人知らない魅力をストーリー付けられると市街地への誘導ができたりして面白い。

<委員>

鉄道文化はこの町の強みであると感じている。

苫小牧から岩見沢に抜ける室蘭本線の直線は、架線も無く空が広く見える。北海道に住む方にとっては当たり前風景でも、本州から移り住んだ私としては、とても新鮮。

また、SLとキハ車両を道の駅へ設置するようであるが、現在の車両も設置してはどうか、今と昔を融合するような取組みも魅力付けになると考える。

<地域推進課>

町の玄関口となる駅と、道の駅を連動、つなげていけると良い。公共交通という観点では、JR北海道の存続問題に関して、安平町は既存の公共交通が適度にあり、それらの利便性を高めるとなるとなかなか難しく、大きな課題と認識している。

また、今回、道の駅が完成し、面白いストーリーや企画を考えていくことは非常に大事なことであり、ぜひ外の方の視点も取り入れながら一緒に取り組んでいければと考える。

<外部有識者>

移住者が多い自治体というのは、観光客が多いというデータがある。

道の駅の説明を聞いていると、移住の説明にもリンクする感じがあり、観光と移住というものは同じ土俵でも良いのではと思う。

道の駅で、ポスターやパンフレットによる「町内こども園」や「就農」など町の魅力を来町者向けに発信するなど、道の駅というプラットフォームから、安平町の魅力を発信していくことで、観光から移住へと安平町は連鎖的に結びついていくのではというワクワク感がある。

<政策推進課>

町の魅力を発信していくという観点では、総合戦略及び総合計画において、シティプロモーション戦略を掲げている。

町の知名度アップから情報交流人口の拡大、交流人口の増加から移住定住へという考え方であり、ご意見のとおり、観光と移住は決して異なるものでないと認識している。まずは、知名度の向上や情報発信をしっかりと行っていくことで、次のステップ、ステージへと連動していくと考えている。

5 その他

- ・ 会議時間の関係上、総合戦略の進捗状況、交付金事業に係る評価検証について、会議での意見以外に意見等がある場合には意見シートの提出を依頼
- ・ 次回会議は、9月頃予定。改めて会議案内を行う旨

6 閉会

以上、終了。(20:30)